

青陽の春

青陽(せいよう)の春」の「青」は五行説で春の色、「陽」は陰陽のうちの陽気で、あわせて春をさします。人生の春に当たる若い時代を「青春」というのも、何でもない言葉のようでいて、実は遠く中国の「陰陽五行説」とつながっています。

四季の異称は、春が青と結ぶ「青春」で、夏は朱と「朱夏」、秋は白と「白秋」、冬は玄(くろ)と結び「玄冬」となります。「青春」は日常語になっていますが、『朱夏』は宮尾登美子の小説、『玄冬』は吉井勇の歌集の題名に使われています。歌人北原白秋の号もこの「白秋」に由来します。

「青春」という言葉には古代中国以来の思想が秘められています。みなさんはどのような青春を過ごしているのでしょうか。充実した青春時代を過ごすために、良書を用意して金商図書館もみなさんをサポートします。

旧図書館の中庭に、地球上最古の花木といわれている木蓮の木がありました。歴史ある金商高校に学ぶみなさんが、心も知識も大きく美しく成長することを願って、図書館だより「木蓮(もくれん)」をお届けします。

新着雑誌

『NEWSがわかる』



●1カ月のニュースをまとめて解説する情報誌。難しいニュースをチェック!

図書委員がすすめる 読んで得するテッパン本

『Colorfulカラフル』森絵都著

生前の罪により、輪廻のサイクルから外された中学3年生の主人公は、天使業界の抽選にあたり、再挑戦のチャンスを得ます。自殺を図った真の体にホームステイし、自分の罪を思い出しながら成長します。様々なことに苦しみながらも立ち向かっていく姿に感動します。(23H)

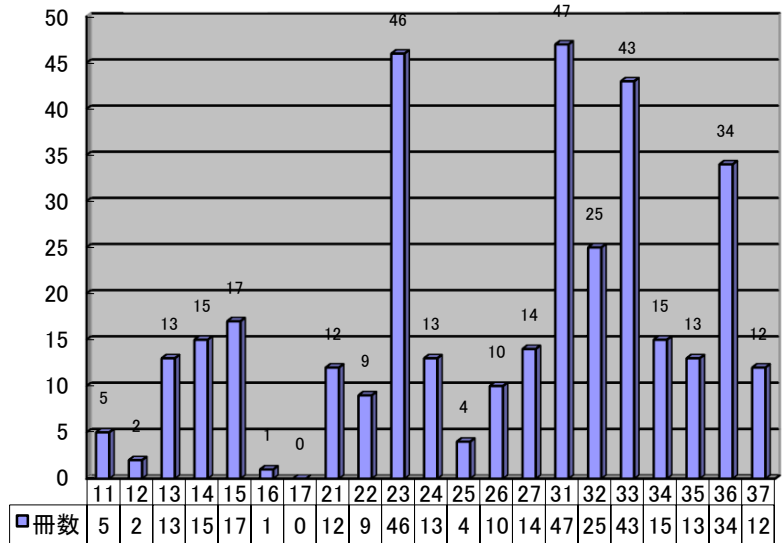
『そして父になる』是枝裕和著

息子が病院で取り違えられた二つの家族を書いたものです。血のつながりか、愛した時間を取るか選択しなければならぬと悲しい話でもあります。家族愛あふれる暖かい場面もあり、とても感動します。(24H)

『レインツリーの国』有川浩著

きっかけは「忘れられない本」。そこから始まったメールの交換。共通の趣味を持つ二人が接近するのに、それほど時間はかからず、彼女に会ってみたくになります。恋愛小説なのですが、人間どうしが真剣にぶつかりあうやりとりが、とてもいいです。(24H)

図書館利用統計【12月1日~1月31日】



12月~1月の図書貸し出し総数は350冊でした。開館日数は32日で、1日平均にすると約10.9冊の貸し出しです。学年別では3年生が189冊、2年生が108冊で、1年生は53冊でした。入館者の総数は3,819人で、1日平均約119人の利用でした。図書館での授業は28時間ありました。新刊も入ってきました。図書館をのぞきにきて下さい。

読書会を開催しました!

*日時 12月18日(金) 15:30~16:30

*テキスト『フォーゲットミー、ノットブルー』柚木 麻子著
(文藝春秋社 2012年発行『終点のあの子』より抜粋)

*「いろいろな人の意見が聞けてよかった」「1冊の本からこんなに話が広がっていくなんて面白い」「機会があったらまた参加したい」等の意見がありました。



立つ鳥跡を濁さず
借りた本は必ず返しましょう!